

ヤングケアラーの支援に向けた主な論点、課題

令和3年4月12日

① 早期発見・把握

- ヤングケアラーは、支援が必要であっても表面化しにくい構造。適切な支援につなげるためにも、早期発見・把握が重要。
 - 学校など教育分野における取り組み
 - 福祉事業者の関わりがある場合に、ヤングケアラーを把握する取り組み
 - 児童委員など地域の手でヤングケアラーを把握する取り組み

② 支援策の充実

- 孤立しやすいヤングケアラーをどう支援するか。また、子どもであることを踏まえた支援が必要。
 - ピアサポート等の悩み相談や、福祉サービスへのつなぎなど相談支援の推進
 - スクールソーシャルワーカーの配置の充実や、NPO 等と連携した学習支援の推進
 - ヤングケアラーが子どもであることを踏まえた福祉サービス等の柔軟な運用の検討

③ 社会的認知度の向上

- ヤングケアラーの社会的認知度を高めることにより、上記①、②を促進していくことが重要。
 - 広く国民に対する広報・啓発の推進
 - 福祉や教育分野など関係者の理解の促進
 - 社会的認知度を高めるような当事者活動への支援